



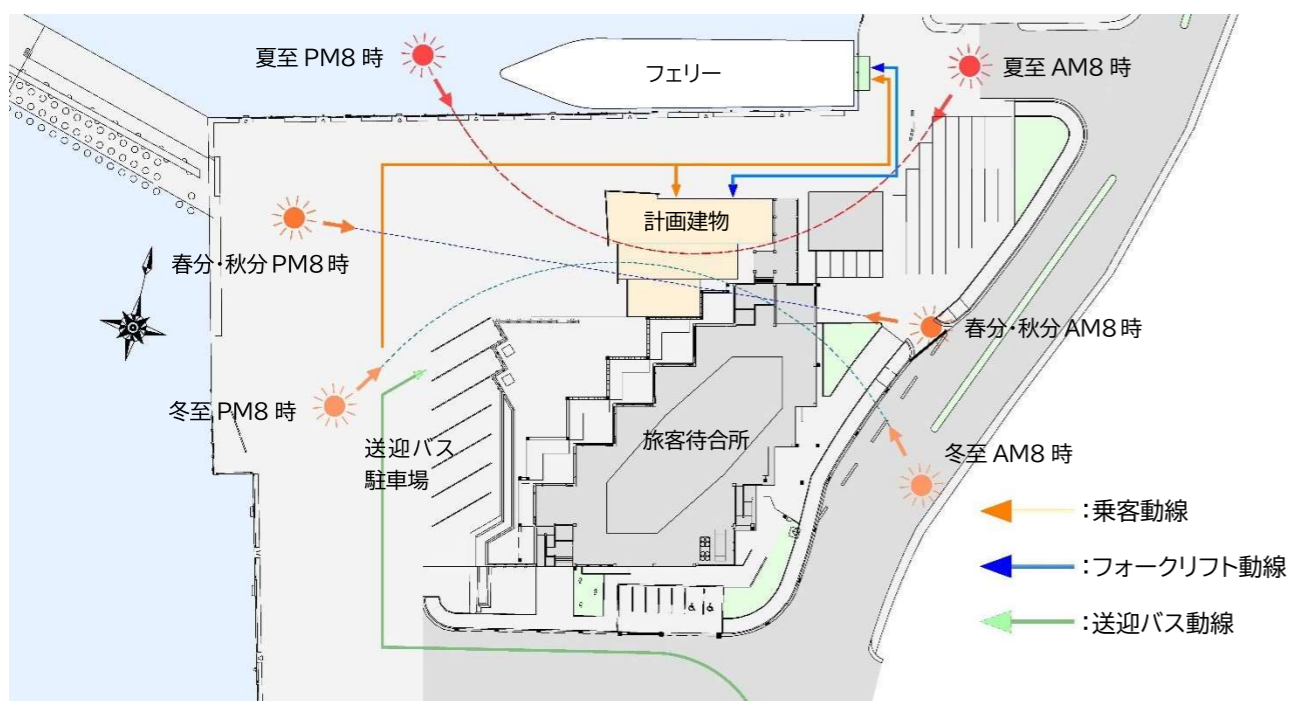
## Go To 伊江島

本部港は、亜熱帯海洋性気候に属して、1年中温暖であり、貴重な動植物や周辺のサンゴ礁は世界的にも高い評価を受けています。また、自然の景観にめぐまれ、透明度の高い海に囲まれていることや港の入り口が広いことから、大型クルーズ船には入港しやすく美しい港として高く評価されています。

その本部港からフェリーで30分の位置に伊江島があります。城山（タッチュー）等の観光名所や戦争に関する史跡があるため毎年多くの観光客や修学旅行生が訪れます。

伊江島は、本部港北西の方角に位置しておりますが、瀬底島に隠れて建設予定地から伊江島を見ることができません。そこでフェリーの先端をイメージした屋根・外壁を伊江島へ向けて位置を知らしめると共にまさにこれから伊江島へ出航するフェリー（いえしま・ぐすく）を表現しました。

西側壁面と屋根面は、雁行させることにより適度な太陽光と風を取り入れる計画としました。それと同時に季節や見る角度・時間帯によって表情が変わり、日差しによる陰影もグレード感をもたらします。個性的でモダンな雰囲気の外観が魅力で待機する時間も楽しめる建物を目指します。



独自で調査した太陽の位置を考慮し西日を遮りつつ、積極的に自然採光を取り入れる計画とします。また、フェリー利用者やフォークリフト動線の安全性も配慮して計画します。

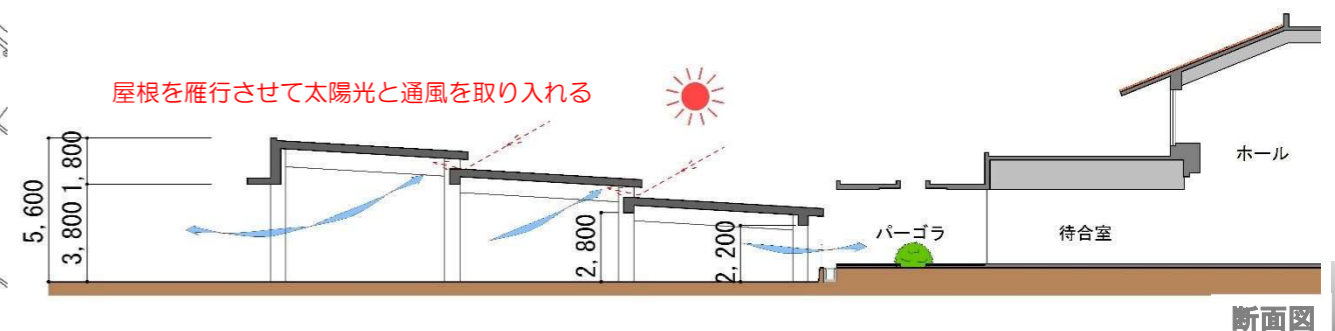
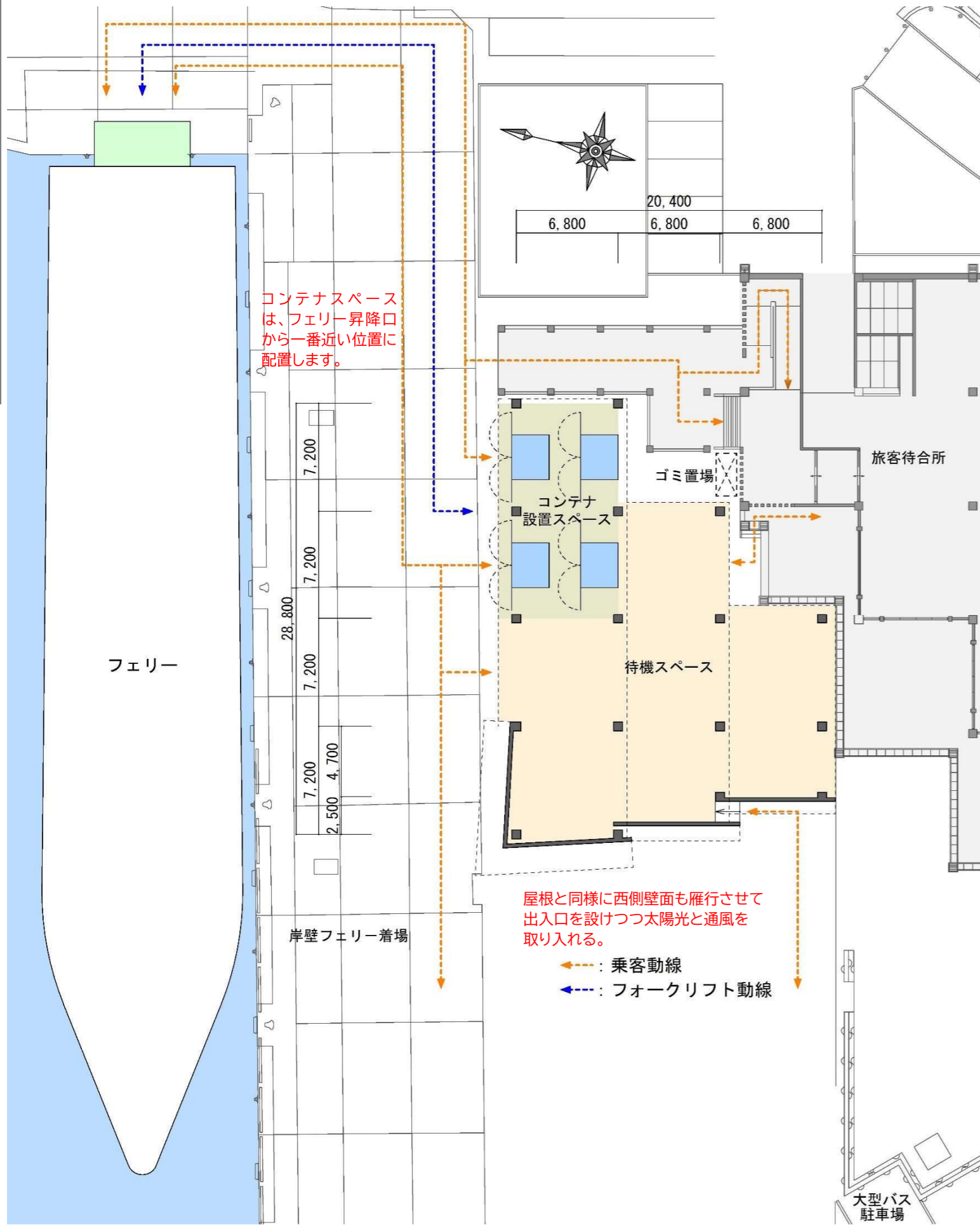
全体配置図



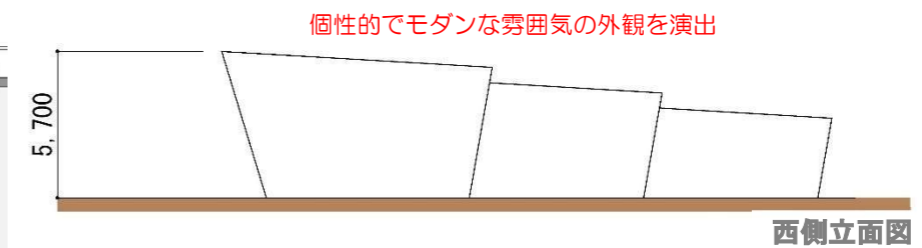
照明器具の設置予定が無いいため内部が暗くならないように屋根から昼光利用できるように工夫します。

内観イメージ





断面図



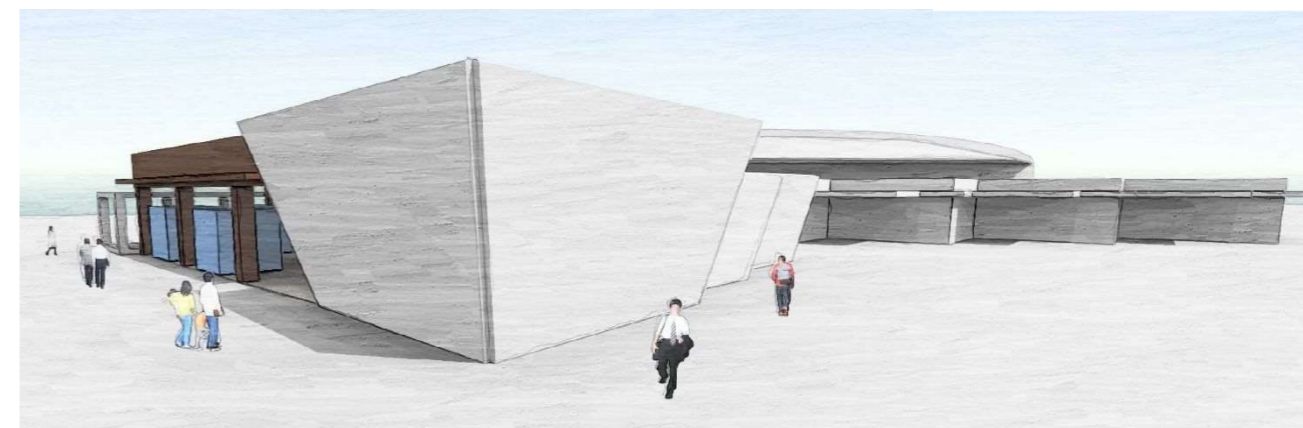
西側立面図

■施設規模概要

鉄筋コンクリート造 平屋

床面積

待機スペース	364.02 m <sup>2</sup>
コンテナ置場	115.20 m <sup>2</sup>
合計	479.22 m <sup>2</sup>



外観イメージ

- バリアフリー等に配慮すること
- 1) 出入口は北側と西側に設け床は全てフラットとします。
  - 2) コンテナ設置スペースもフォークリフトの作業を考慮して出入口同様にフラットとします。
- 点検作業に配慮すること
- 床仕上げは、スタンプコンクリート仕上、壁天井共に一般的な塗装材仕上として基本的にメンテナンスフリーとします。
- ライフサイクルコストに配慮すること
- 1) 鉄筋コンクリート造の部材にすることで修繕や更新にかかるコストを抑制することができ建物を長く使うことにもつながります。
  - 2) 維持管理のしやすい建築を設計することで、それにかかる人的コストを削減することができます。また、特殊な材料を使用せず容易に調達できる材料の採用を心掛けコスト削減を図ります。
- 港の景観に配慮すること
- 1) 階高は、既存旅客待合所の1階部分高さと同程度として圧迫感を抑える。
  - 2) 周辺施設と馴染むように外壁塗装には奇抜色は使用しません。
- 建物支持方針
- 当該敷地の地盤状況は、近隣データによると表層から礫混じり砂、シルト混じり砂とシルト混じり砂礫の互層で構成されており、その下部より琉球石灰岩層が出現します。GL-16m~22.5m付近のシルト混じり砂層は、地震時において地盤の液化化の可能性が高いです。当該敷地は、かなり深い位置でないと工学的基礎層は出現しません。また、上部構造はRC造平屋で基礎に作用する軸力はそれほど大きくありません。
- 上記を勘案して本建物は GL-16m付近以深のシルト混じり砂礫層を支持層とする直接基礎として計画します。支持層から基礎下端までは、地盤改良（深層混合処理工法による柱状改良）により置換します。